

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市スポーツ推進審議会
- 2 開催日時 平成28年1月22日（金） 午後3時から午後4時13分まで
- 3 開催場所 ケーズデンキスタジアム水戸（水戸市立競技場）
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 坂場 小弥太, 石崎 功, 安達 薫, 高久 たかみ,
永野 智恵子, 大津 慶子, 沼尻 久, 岩間 秀男,
高橋 五志生, 仁平 克幸, 日下 裕弘
 - (2) 執行機関 太田 達彦, 林 栄一, 高安 正紀, 藤田 正大,
谷中 恒夫, 本田 順一, 菅本 智克
 - (3) その他
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 水戸市スポーツ推進計画について（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
 - （資料1）水戸市スポーツ推進計画（素案）
 - （資料2）水戸市スポーツ推進計画の策定スケジュール
 - （参考資料）水戸市スポーツ推進審議会条例
- 9 発言の内容

____**会長**：水戸市附属機関の会議の公開に関する規程に基づき、会議録署名人2人以上を置くこととなっておりますので、委員名簿順に従い、今回は出席されている____委員、____委員をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員：（異議なしの声）

____**会長**：ありがとうございます。それではよろしく願いいたします。

本日の議題は、水戸市スポーツ推進計画の1件が予定されております。それでは事務局から説明願います。

執行機関：（資料に基づき説明）

会長：ただ今事務局から、非常に丁寧に、要点をきちっと説明していただきましたが、これまでに至る私たちの案プラス、市の魁プラン、第6次総合計画との整合性も図らなくてはならない、県から譲り受けました東町の新体育館も考えなくてはならない、それから市の政策会議の中で揉まれていると思いますが、形式ですね、皆さん目次でお分かりのように、計画策定の基本的事項から始まり、計画策定の背景、計画の基本的方向、この形式は全て、水戸市の他の計画との整合性を考えて作られています。例えば男女平等の計画や、生涯学習の計画など、全て統一されています。それと、部局間の調整も図らなくてはならないなど、事務局の方は極めてチェックの厳しい作業をされてきているわけです。

よく見ると、私も多少は加わっています。私たちが、前に計画に盛り込んだこと、アンケートで出てきたことなど、いろいろな形で全部入っています。ただそれが、同じ言葉ではなくて、形式が決まっているものですから、入る場所が変わっているということはありません。それで、やっこの素案までたどり着いたということです。

文章の細かいところにつきましては、きりが無いのですが、多少はあります。私も昨日、一生懸命読んだのですが、例えばスポーツの定義、スポーツという言葉は非常に広く、子どもの遊びから競技スポーツまで広く、いわゆる身体活動といわれるものまでをスポーツの定義としていますが、例えば私が言えば、こういう表現の方が良いのではないかとこのところも多少はあります。

今、課長さんが説明していただいたのは、骨組み、骨格、キーワードのところになります。今日、ここで皆さんに大枠について議論いただきまして、このスケジュールを見ると時間がないので、できればすんなりと大枠を通していただき、言葉の細かい修正につきましては、私や事務局が、政策会議等もありますが、チェックしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

どうでしょうか、皆様、何か御質問、御意見等がございましたら、発言をお願いいたします。

基本的には、これまで水戸市がやってきたスポーツ施策を、引き続き改善をしながらやっていきましょう、そのほか新しい市民のニーズに合った施策をどんどんやっていましょうということです。

委員：よろしいでしょうか。水戸市のスポーツ推進計画素案ということで、賛同する意味合いを持って話ししたいと思います。スケジュールを見ますと、行政の中でかなり揉んだなという足跡がかなり見受けられます。連絡会議も3回ほど緻密にやってきています。最近、市長からコンベンションという言葉が聞かれますが、スポーツコンベンション、それから観光などのコンベンションがあります。観光協会なども必死になっています。水戸市民の人口増が望めないという状況の中で、県央を担っている県都・水戸市であります。コンベンション等を利用して、人の流れを県央の方に向けさせることが重要なので、スポーツの面においても、やはりスポーツコンベンションを、新たな時代に沿ったものとして導入するのだということが、この計画で実感いたしました。

なお、この中で更に注視していかなければならないこととして、「気軽に参加できる多様なスポーツの充実」の中の、市民運動会です。32地区でそれぞれ開催されているわけですが、少子高齢化や生活様式の変化により中身がだんだん変わってきて、参加者が減ってきているという状況です。推進計画にも入っていますので、社会変化に伴う市民ニーズを収集し、どうあるべきかということを行政の中で検討し、各地区に3名ずつスポーツ推進委員がおりますので、十分に連携を保って、今後の市民運動会の資質を上げていただきたいと思います。

会長：スポーツ基本法とスポーツ基本計画にもございますけれども、その中で、スポーツ推進委員さんのコーディネーターとしての役割等が書いてあります。これから時間はかかっても、運動会をどうしようかということのを皮切りに、市民の方々が幸福になるように、幸せになれるようなスポーツ施策を、地域として何かないのかという話にもつながるように、注視していかなければならないと思います。

委員：スポーツ推進委員の____と申します。私の地域でも少子高齢で人員が減っております。だからといって、運動会をやめようということではなくて、我々の地域では、それに代わるものは何が良いのか、どうすれば参加してもらえるか、また、参加してもらえる条件であるかというところで、スポーツ推進委員も各地域では努力をしているわけです。少子高齢化だから運動会の規模を縮小させようとか、取りやめようとかではなく、いかに継続させるかということが問題でありますので、スポーツ推進委員は、何に種目を変えようとか、条件を変えようとか、どうすれば少しでも多くの方に参加してもらえるのかを模索しながら、各地域では頑張っている状況ではあります。

会長：まさに今、委員がおっしゃったことは、魁プランの内容で、そういうことを大事にしながら、水戸市はこれからどうしても高齢化するんだと。だったらスポーツの面で少しでも努力していこうということが魁プランです、夢を持って頑張りましょうということです。

会長：前向きな形でやっていかないと、じり貧になって、結局あまり良い結果が出てこないのではないかと思います。その辺をいかにして前向きな考えで進めていくかということが大事ではないかと思います。

委員：町内によっては人数が少ないところもあり、私のところも小・中学生が少なく、町内対抗は棄権してしまいます。棄権すると保護者も来なくなってしまうので、町内ではなくて、人口の割当てで合併しなさいと強制的にしていかないと、小さい町内はどんどん離れてしまいます。私たちも班長なので手伝うのであって、班長でなければ行かないという人が多いです。その辺を考えてもらえればと思います。

委員：私は上中妻というところなのですが、やはり小さい町内ですと、隣や小さい町内と合併してやっています。どうしても団体戦に出られないところは個人戦に多く出してもらうようにしていますし、団体戦を減らして個人戦を多くするようにしています。

委員：それはいいですね。やっぱり団体戦だと、組める町内と組めない町内がありますので、組めない町内だと、中学生などは恥ずかしいといって来なくなってしまう。班

長なども苦勞しているのです、その辺を考えてほしいです。

会長：はい、ありがとうございます。ちょっと別なテーマもありますので、重要な問題の核心部分でもありますけれども。

委員：他のテーマなのですが、このアンケートの中身を見ますと、スポーツをやりたい、何かに参加したいけれども、情報が「広報紙を見て」というのが一番になっています。地域の中でも、こういうことをやっているのかというのが結構あるものですから、何らかの形で参加はしたいけれども、きっかけがない。知らないというのものもあるし、1人だけで行ったら恥ずかしいとかいろいろあるものですから、もう少し広報をうまく利用して、例えば水戸だったら弘道館や水戸城など、歴史のロードマップを作ってウォーキングをやるとか、運動会にこだわらず、どんどん地域の人が入ってこられるようなことをやっていけば、このアンケートの中で「何かはしたい」というのが8割いるわけですから、簡単な歩きでもいいし、そういったものをどんどんやると、このスローガンじゃないですけど、「いつでも どこでも だれでも いつまでも」ということになってくるのではないかと私は思います。

委員：ちょっと話が違うのですけれども、縁がありまして「みるスポーツ」として、ホーリーホックの試合を観たいなという気持ちがあったのですけれども、やっぱり自分からチケットを買ってという歳でもないし、観に行く機会がなかったのですが、たまたま観に行きますかと言われて、「行く、行く。」と飛びついて観たのですけれども、すごく面白かったです。行きたいなと思う気持ちはあって、行けば面白いので、何らかのきっかけがあればと思います。

委員：ホーリーホックで市町村の日というのがあって、水戸市の日には入場料が無料になるので、そういう日を逃さずに応援に行ったほうがいいですね。

委員：どこかの地域ではバスを出して来ていると聞きましたが。

委員：下市ですね。下市はいろいろなイベントをやっていますね。私は下市ではないのですけれども。

会長：国自体が、「する」「みる」「ささえる」という戦略ですから。実際体験してみると違いますよね。ボランティアなども実際にやってみると違うのですよね、実感としてやると。人のためにやっているのだけれども、実は自分が元気をもらったとか。

委員：スポーツに対する意識が違ってきますよね、実際に観ると。

会長：その他、ございますでしょうか。

委員：よろしいですか。仕事が仕事なので、どうしても競技スポーツとか、スポーツの観戦に目が行ってしまうのですが、事務局に質問で、教えていただきたいのですが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックについて、計画には事前キャンプの誘致等に努めますという文言があります。それで2020年の1年前にラグビーのワールドカップが日本で開催ということで盛り上がるんじゃないかと思いますが、水戸市としてラグビーのワールドカップについて、例えば事前キャンプの誘致等に手を上げるようなおつもりはあるのかどうかをお教えいただきたいのですが。

執行機関：はい、ただ今の御質問ですが、現時点でははっきりとした方針決定はしてござ

いません。

委員：分かりました。もう一点ですが、ラグビーとは離れましてバスケットボールなのですが、今年の秋から、分かれていたバスケットボールのリーグが統合されて、Bリーグという名前でプロバスケットボールのリーグが新しくスタートするということになりまして、茨城にもつくばにホームタウンを持つ「サイバーダイナミックつくばロボッツ」というチームがありまして、2部からスタートということになっておりますが、つくば市との支援の問題がなかなか難しい部分もあって、名称も「つくば」という名前から、今年の秋から「ロボッツ茨城」という名前に変えてスタートをすると聞いていまして、プロバスケットボールリーグと水戸市との支援、係わりについて、今の段階ではどう考えておられるのかということについて聞かせていただけませんかでしょうか。

執行機関：はい、バスケットボールのお話でございますが、今、お話がありましたように、来シーズンからBリーグということで、2部について参加するにあたっては、3千人規模以上のアリーナが必要だという条件がございます。県内で3千人を確保できるアリーナといいますと、水戸の青柳公園市民体育館が唯一と伺っております。そういったこともありまして、つくばロボッツさんのほうからは、来シーズン青柳公園市民体育館を活用してほしいというお話がございまして、我々といたしましては可能な範囲で体育館を利用いただくという形で調整を進めております。

委員：青柳の体育館では駐車場が狭いのではないですか。その辺はどう考えているのですか。

執行機関：はい、御指摘のとおりでございまして、実は青柳の体育館につきましてはプールも併設してございますが、震災以降は使えない状況になってございます。それで茨城国体も控えておりますので、暫定的ではございますが、来年度以降、プールを解体し、駐車場にする予定でございまして、ある程度の駐車場は確保できると考えております。また、プロスポーツなどの大規模イベントの場合は、車での来場が予想されますので、主催者側で周辺の駐車場、例えば市場の駐車場等を使っていただいて、シャトルバスを出していただくとか、混雑が予想される場合は、そういった対応をお願いするように考えてございます。

委員：東町ではやらないのですか、アリーナとしては。

執行機関：東町の体育館につきましては、市民の皆様がスポーツを競技する場というだけではなくて、「みるスポーツ」、観戦するスポーツの充実を図りたいと考えておりまして、当然、今まで呼ぶことができませんでしたプロスポーツ、こういったものも誘致してまいりたいと考えておりまして、まだはっきり現時点ではお答えはできませんが、我々としては、つくばロボッツさんを始めとするプロスポーツを、ぜひ東町でやっていただけるようにしていきたいと考えております。

委員：東町の収容人員は何人ですか。観戦できる数は。

執行機関：メインアリーナとサブアリーナの2つのアリーナを造るのですが、メインアリーナにつきましては、現時点では、約3千7百席を確保する予定でございます。ただ、バスケットボールなどの場合は、コートの上に仮設の椅子を設けることによって、も

うちちょっとプラスアルファの座席は確保できると考えてございます。

会長：プロスポーツはいいですね、今日も錦織がやっけていまして勝ちましたけれども、錦織の活躍は随分、子どもたちや私たちに刺激を与えてくれていますね。

まあ、生涯スポーツ社会の実現に向けて、水戸市がこれから8年間、これでやっけていきたいと思います。もしも何かつまずいたら、PDCAサイクルに基づいて、もう1回練りながら、最初からやり直したいと思います。

もし何かありましたら事務局の方へ意見を述べていただきまして、私の方も何かあつたら言いますけれども、今のところは大丈夫です。私と事務局とのやりとりでお任せいただければ有り難いのですが。こういう素案の骨子で行きますということを、御承認いただければと思います。

委員：（異議なしの声）

会長：ありがとうございます。それでは事務局と全力を尽くしてやりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、議長の座を降ろさせていただきます。御協力ありがとうございました。